

2021 年度 三田図書館・情報学会研究大会

シンポジウム

知的資源の蓄積・発信の拠点としての大学：変動期の世界と日本のなかで

変動期の世界における大学という拠点を、知的資源の蓄積・発信の拠点としてあらためて捉え直す機会として本シンポジウムを企画しました。はじめに、問題提起を大学論やデジタルアーカイブについて発言を続けている吉見俊哉氏にさせていただきます。さらに、開設されたばかりの慶應義塾ミュージアム・コモンズ（ケムコ：KeMCo）に焦点をあて、KeMCo の関係者並びに慶應義塾大学メディアセンター（図書館）の関係者からお話を伺います。その上で、慶應義塾大学を例に、大学の知的資源の部署を超えた把握と蓄積、活用と発信、様々な連携の可能性について論じていただきます。最終的には登壇者と参加者との意見交換を行い、デジタル技術も活用しながら、知的資源の蓄積・発信の拠点として大学をあらためて位置づけ、その拠点としての役割を実現していく上で、何が必要なのか、図書館・情報学研究者をはじめ、広く大学関係者が共に考える場にしたいと思います。

◆登壇者

- 吉見俊哉氏（東京大学大学院情報学環教授）
「ポストコロナ時代の大学とは何かー地球社会のリベラルアーツ」
- 松田隆美氏（慶應義塾大学文学部教授、慶應義塾ミュージアムコモンズ機構長）
「オブジェクトとしての書物とミュージアムーKeMCo の提案」
- 渡部葉子氏（慶應義塾大学アート・センター教授／キュレーター、慶應義塾ミュージアムコモンズ副機構長）
「創造的空き地=KeMCo の挑戦」
- 関秀行氏（慶應義塾大学三田メディアセンター事務長）
「KeMCo が作り出す知的資源発信の新しい形ー大学図書館から見た変化」

◆コーディネーター

池谷のぞみ（慶應義塾大学文学部教授）

参加申し込みはこちらから。

<https://mslis2021.peatix.com>

三田図書館・情報学会研究大会のサイト

<http://mslis.jp/annual.html>